碓氷第三橋梁

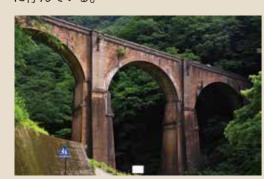
群馬県安中市松井田町坂本

JR信越本線横川駅から国道18号旧道を たどり山奥へ。15分ほど走ると緑が繁茂する 大自然のなかに突如として巨大な煉瓦造の 構造物が現れる。かつて信越本線の横川~ 軽井沢間(通称碓氷線)をつないでいた碓 氷第三橋梁、通称「めがね橋」である。高さ 30m超。1893(明治26)年に200万個あまり の煉瓦を積み上げて建造されたインフラの 存在感に圧倒される。

急勾配を昇降するために採用されたのは アプト式の線路だ。線路の真ん中にラックレ ールと呼ばれる歯形のレールを敷設し、機関 車側の動輪(ピニオン)と噛み合わせて急峻 な勾配を登る。大きな荷重を分散させるため に、鉄桁ではなく煉瓦造のアーチ橋とした。

完成の翌年に発生した明治東京地震に より橋台に亀裂が発生し、橋脚とともに補強 工事が施された。橋脚が2倍ほどに太くなり、 その結果径間も18.3mから16.5mに狭小化 している。かつては現在よりもスレンダーな アーチ橋だったのだろう。120年という時間 に磨き上げられ、峠に屹立する土木アート。 その変遷に思いを馳せた。

1963(昭和38)年、電化された信越本線 が敷設され、めがね橋は約70年の歴史に幕 を下ろす。その新線も1997(平成9)年の長 野新幹線開通を機に廃線となった。その上 下線の2基とめがね橋が碓氷の山間に静か に佇んでいる。



長さ91m、高さ31m、4径間の国内最大級の煉瓦造アーチ橋。 通称「めがね橋」。1893(明治26)年に完成。1963(昭和38) 年、信越本線の電化に伴い廃線となるまで供用された。1993(平 成5)年に碓氷鉄道施設として国の重要文化財に指定。横川駅 からの線路跡は「アプトの道」として整備されている。

